

公務災害防止事業の推進

「安全管理セミナー（惨事ストレス対策関係）」及び「S-KYT研修（2時間コース）を実施して」

鳥取県町村消防災害補償組合

1 はじめに

鳥取県は、日本列島本島の最西—中国地方の北東部に位置し、北は日本海に面し、東は兵庫県、西は島根県、南は中国山地を隔てて岡山県と広島県に隣接しています。県の人口は59万人弱と、東京都八王子市の人口とほぼ同規模の日本一小さな県です。

鳥取砂丘をはじめ東西に伸びやかに広がる白砂の海岸線。中国地方最高峰の大山を擁する雄大な中国山地。近年、こうした大自然をエコツーリズムとして観光産業に生かす取組が県内の多くの地域で行われ、一年を通して多くの観光客に来訪いただいています。また、古くから韓国、中国、モンゴルなどの国々と交流がある当県は、環日本海地域の交流拠点として、さまざまな分野での交流活動に取り組んでいます。

2 組合の概要

当組合は、昭和29年10月に、それまで一部の郡を除く各郡単位で設立していた一部事務組合を統合し、36市町村による一部事務組合としてスタートしました。その後、平成17年の市町村合併を経た後、15町村による一部事務組合となり、現在に至っています。

主な事業として、消防基金との共済契約に基づく公務災害補償を行うとともに、公務災害防止事業のひとつである安全装備品整備等助成事業を活用し、町村の安全装備品の整備拡充に努めています。

3 安全管理セミナー＆S-KYT研修（2時間コース）開催の経緯

平成24年度に公務災害が多発したことから、25年度の事業として安全管理セミナーを行う予定としておりましたが、他ブロックでのS-KYT研修普及の取組を知り、S-KYT研修を鳥取県でも普及させたいと思うに至りました。しかし、これまで県内でS-KYT研修を行ったことがなかったため、まずは試金石とするべく、当組合が主体となって県内市町村の実務担当者並びに消防団幹部団員を対象に、S-KYT研修（2時間コース）を体験版として提供することを決めました。

さらに、東日本大震災の教訓をこれからの消防団活動に生かすべく、安全管理セミナーの一環で、惨事ストレス対策関係の研修も併せて実施することとしました。

4 安全管理セミナー＆S-KYT研修（2時間コース）を開催して

平成25年10月5日、午前中に安全管理セミナーを、午後からS-KYT研修（2時間コース）を開催しました。当日は、県内11市町村から実務担当者9名、消防団幹部団員等60名に御出席いただきました。

安全管理セミナーでは、香川大学医学部精神神経医学講座から篠原朝美助教授（消防庁緊急メンタルサポートチームに登録）をお招きし、「消防団の惨事ストレス対策について」と題して、約90分間、スライドを用いて御講演いただき、東日本大震災を契機として消防団員の惨事ストレスが広く認識されはじめたこと、惨事ストレスは、凄惨な体験をした誰もが罹（かか）りうる正常な自己防衛反応であることなどをお話しいただきま

した。

終了後、出席者に対して行ったアンケートでは、「団幹部として団員に対しての要請の仕方や事故対応を学ぶ必要性を感じた」、「全ての人に対する回答がないのかもしれないが、ふだんからこのような知識を持つことはたいせつ」、「団員同士でコミュニケーションに取り組みたい」、「自分のこととして受け止めることが難しいが、遭遇したときには今回の研修を思い出して対応したい」など、御好評をいただきました。

S-KYT研修（2時間コース）では、参加者数の都合から22名と39名の2つの会場に分けて研修を実施しました。前者の会場では、大国幸雄氏、岡田孝範氏の2名の指導員から、また後者の会場では、多々羅光男氏、福井啓剛氏、小田敏数氏、森方功氏の4名の指導員から、それぞれテキスト及びDVDを用いた講義のほか、指差し呼称、タッチ&コール、そしてS-KYT4ラウンド法などの実技指導を熱心に行っていただきました。

研修中は、冒頭から参加者の力強い発声・動作に圧倒され、また、活発に意見交換を行う様子から講師陣の指導にも更に力が入り、あっという間の2時間でした。

終了後、出席者に対して行ったアンケートでは、「大声で指差し呼称をして気持ちが引き締めまりよい。定期訓練でもS-KYTを使いたい」、「今までスピードと結果を第一に考えていたが、安全第

一と思った」、「正直、楽しかった」、「短時間でのことだったが団の上の者としての役割等を再確認した気持ち。団員にも受けさせてみたい」など、体験版であったにもかかわらず大きな反響に驚きました。

5 今後の取組について

安全管理セミナーについては、惨事ストレスについて効果的な啓発ができたと思います。今後は、対処法の模索と併せて、折を見て研修に取り入れたいです。

S-KYT研修については、今回は体験版ということで2時間コースを設定しましたが、今後は、4時間コースを用いた研修を企画してじゅうぶんに学んでいただきたいと思いました。

また、研修の実施方法については、組合主体で実施するだけでなく、市町村単独でも公務災害防止研修プログラムを手軽に活用できるような環境づくりに努めて行きたいと思います。

(消防基金・注)

惨事ストレス対策関係の研修については、平成26年度より、「消防団員災害救済ストレス対策研修」として新たに実施することとなりました。

この研修の開催について興味・関心がある団体の担当者のかたは、消防基金・企画課（TEL：03-3595-0544）までお問い合わせください。



▲安全管理セミナーの様子



▲S-KYT研修の様子